

平田先生から、私たち建築士へ、専門家として“動き出すように”と直球を投げかけられ、防災活動をさらに、促進しなければと思った次第です。参加者数 44 名。

～講演会に参加して～ 横浜支部 越智英夫

私の住む町内会は、規模が小さく、町会予算も少なく、高齢化もあって町会活動は、低調です。昨年度、町会役員当番で、防災役を受けましたが、防災意識の低さ、無きに等しい防災体制に驚きました。予想される大地震に、何とかせねば、今では必然である町会の「共助」組織として対応できないと考え、町会の有志数名と防災専門部会を立ち上げ、町会の総会で認められました。既存の防災倉庫本体の自主改修工事から、防災機材の充足整備や初期消火機材の導入に、公的助成金申請や消火器設置のための自主工事の実施、実践的防災訓練計画も立てました。

その間、行政の防災・減災推進研修を受けたり、地域防災拠点活動にも参加しました。

しかし、町会員への「自助」意識の啓発や「共助」体制の再構築など、一朝一夕にできる訳もなく、焦らず目に見えることからひとつずつやるしかありません。その中で、建築士として建築の知見や経験はあるも、その前に、被災者としての想像や目線で考えることのほうが重要なことと感じました。

そして、大地震の怖さは、一般の方より日常的に、建築士は具体的に想像できる実践的職種であることから足元の「防災・減災」を強く意識しました。

皆さんのお住いの町会の防災体制はいかがですか。

今回は、建築士として、災害支援について、知りたいと講演会に参加しました。